

平成30年度
事業報告

社会福祉法人 博愛会

ハーマニー松葉

1. はじめに

平成 30 年度の当法人は、経営組織のガバナンスの強化や事業の透明性の向上、財務規律の強化、地域における公益的な取り組みを行い、責務をより一層果たせるよう取り組み、近隣の社会福祉法人との共同事業による子ども食堂や地域交流イベント「歌の祭典」を実施し、地域社会へのアウトリーチの充実を図り、それに伴いブランド力や地域からの信頼性の向上、人材確保の安定化につなげることができた。

軽費老人ホーム（ケアハウス）は 3 ヶ年計画の最終年度となったが、自立高齢者の住まいとしての機能のみならず、セーフティーネットとしての役割や地域包括ケアシステムの中心を担えるよう、ご入居者の自立支援やサービス向上を目標に協働で施設運営や地域公益活動に組み込み、安定した運営・経営につながった。

デイサービスにおいても 3 ヶ年運営計画の最終年度であったが、介護報酬改定やみなし事業であった稲城市介護予防・日常生活支援総合事業について通所型サービス A 事業に移行となり、大きな制度改正の煽りを受け運営・経営面で厳しい状況となった。そのような状況の中でサービスの見直しや組織の標準化を目指し取り組みを行った。

また、稲城市介護予防・日常生活支援総合事業（通所型 C 事業）筋トレ事業は、制度上の課題等により稼働率が向上せず収支面で経営を圧迫しているため、8 月で事業廃止し経営の適正化に努めた。

稲城市からの受託事業である介護予防体操教室事業についても、施策の変更により通年での実施から 3 ヶ月のみの実施となったことから、職員が中心となり修了者のための自主グループを立ち上げ、高齢者の介護予防における新たなコミュニティ作りを行った。

平成 31 年 3 月 31 日を以って平成 30 年度の法人運営が滞りなく終了したので、以下にその主だった取り組みを報告する。

2. 法人全体

（1）運営面

《取り組みの結果》

①ケアハウス・デイサービス共に平成 28 年度からの 3 ヶ年運営計画の最終年度であったため、計画に則りサービスの改善や職員の資質向上につなげ、ご利用者・ご入居者へのサービス向上を図った。また、平成 31 年度からの 3 ヶ年運営計画の改定時期であったため新たな運営計画の策定を行った。

②平成 30 年 9 月に東京都福祉保健局指導監査課による実地検査が行われたが、運営基準に従った書類の整備や行政への届け出を行い、法令を遵守にて運営を行っていたため文書指摘事項はなかった。

（2）理事会・評議員会・監事監査

《取り組みの結果》

①改正社会福祉法や定款に則り、監事監査、理事会及び定時評議員会を次の通り開催した。

平成30年度 理事会・評議員会・監事監査 開催一覧

回	実施年月日	主要な付議案件	備考
1	平成30年5月8日	・平成29年度 業務監査及び決算監査	監事監査
2	平成30年5月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人博愛会 平成29年度事業報告について ・社会福祉法人博愛会 平成29年度決算報告について ・稲城市介護予防日常生活支援総合事業 第1号事業通所型サービスCにおける事業廃止について ・社会福祉法人博愛会 育児・介護休業等に関する規程について ・社会福祉法人博愛会 平成30年度定時評議員会の招集決議について 	理事会
3	平成30年6月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人博愛会 平成29年度事業報告の承認について ・社会福祉法人博愛会 平成29年度決算報告書の承認について 	定時評議員会
4	平成30年10月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人博愛会 平成30年度補正予算(第1号)について ・社会福祉法人博愛会 就業規則の一部改正について ・理事長及び業務執行理事の職務執行状況の報告について 	理事会
5	平成31年3月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人博愛会 平成30年度補正予算(第2号)について ・社会福祉法人博愛会 非常勤職員就業規則の変更について ・社会福祉法人博愛会 平成31年度事業計画について ・社会福祉法人博愛会 平成31年度当初予算について ・社会福祉法人博愛会 平成31年度稲城市受託事業について ・社会福祉法人博愛会 苦情処理解決第三者委員の選任について ・理事長及び業務執行理事の職務執行状況の報告について 	理事会

- ②東京都社会福祉協議会主催の社会福祉法人における監事の役割と監査の概要研修に監事 1 名が参加し、理事会で研修内容を報告し周知を図った。
- ③平成 30 年 10 月及び平成 31 年 3 月の理事会にて、理事長及び業務執行理事が職務執行状況の報告を行った。
- ④適切な法人運営を行うため定款施行細則に則り、理事長、業務執行理事及び施設長が職務を執行した。

(3) 人事管理・人材育成

≪取組みの結果≫

- ①人事評価制度に関する規程に則り、職員に対し人事評価を実施し能力、成果及び意欲を正しく評価することで、処遇に適正に反映させた。また、次年度から目標管理制度を実施するため要綱を策定した。
- ②法人キャリアパス体系における要件に則り、嘱託職員 1 名を正規職員に、介護職員 1 名をパートタイマーから非常勤（社会保険加入）にキャリアアップを実施した。また、ハローワークにキャリアアップ助成金の申請を行い承認された。
- ③運営基準や法令を遵守し適切な運営、人員配置が行えるよう運転手や介護職員の新規採用を行った。
- ④新規採用職員については、中堅職員によるエルダー制度や内部研修を行い、職員の人材育成や業務の円滑な引き継ぎ及び段階的な教育・指導を行った。
- ⑤各事業における職務分担表の見直しを行い、内部牽制機能の強化と業務の適正化を図った。
- ⑥東京都福祉保健局や東京都社会福祉協議会等の外部機関が行う研修に以下の通り職員を派遣し、研修で得た情報を報告書の回覧や外部研修報告会で他職員との共有化を図りスキルアップやサービス向上に繋げ、また稲城市や東京都及び稲城市社会福祉協議会の委員会などにも積極的に携わり尽力した。

平成30年度 外部研修・委員会参加一覧

回	研修名・委員会名	主催者・講師	参加者
1	<ul style="list-style-type: none"> ・軽費分科会（全 6 回）（都所管課との意見交換会含む） ・施設長としての悩み事について語り合う研修会 ・都民フォーラム ・東京都高齢者福祉施設協議会 平成 30 年度第 2 回総会 ・地域包括ケア推進委員会（全 8 回） ・新時代の高齢者福祉デザイン検討委員会（全 4 回） 	東京都社会福祉協議会 高齢者福祉施設協議会	施設長
	<ul style="list-style-type: none"> ・第三次稲城市保健福祉推進委員会（全 2 回） 	稲城市	

	<ul style="list-style-type: none"> 平成 30 年度稲城市社会福祉協議会 理事会（全 5 回） 	稲城市社会福祉協議会	
	<ul style="list-style-type: none"> 応急手当普及員再講習 	稲城消防署	
	<ul style="list-style-type: none"> 稲城市における社会福祉法人の公益的な取組み実践発表会（発表） 	稲城市社会福祉法人連絡協議会	
2	<ul style="list-style-type: none"> 大都市東京における軽費老人ホーム（ケアハウス・都市型・A 型・B 型）のこれからについて考える研修会 	東京都社会福祉協議会 軽費分科会 講師：東洋大学ライフデザイン学部 准教授 早坂 聡久氏	施設長、ケアハウス生活相談員、介護職員
3	<ul style="list-style-type: none"> 平成 30 年度キャリアパスを活かした人事管理と育成制度 	東京都福祉人材センター 研究室	事務長
4	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉法人蒼生会 第三万寿園 施設見学会 	軽費老人ホーム A 型第三万寿園 生活相談員 阿部 春菜氏	ケアハウス生活相談員、介護職員、事務職員
5	<ul style="list-style-type: none"> 平成 30 年度レジオネラ症防止対策講習会 	南多摩保健所	用務員
6	<ul style="list-style-type: none"> いなぎ苑デイサービス見学会 	社会福祉法人永明会	デイサービス 介護職員、看護師
	<ul style="list-style-type: none"> アクアメイト稲城デイサービス見学会 	サンスクエア沼南グループ	
	<ul style="list-style-type: none"> ペアウェル矢野口デイサービス見学会 	(株)ペアウェル	
7	<ul style="list-style-type: none"> 軽費分科会 生活相談員連絡会（全 4 回）※ 都市型ケアハウスルミエールふるさと見学会、軽費・養護合同研修会含む 生活相談員研修委員会全体会 生活相談員が施設の「人材」であるために！～生活相談員の視点で考える人財確保と施設経営とは～ ソーシャルワークビジョン小研究委員会（2 回） 	東京都社会福祉協議会 高齢者福祉施設協議会	ケアハウス生活相談員
8	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括ケアに取り組む生活相談員の姿 	東京都社会福祉協議会 高齢者福祉施設協議会 地域包括ケア推進委員会	施設長、ケアハウス生活相談員・デイサービス マネージャー・事務員兼機能訓練指導員

9	・誤嚥性肺炎入院ゼロ達成3つの技法 (口腔ケア週2回法)	東京都社会福祉協議会 高齢者福祉施設協議会 看護職員研修委員会	デイサービス 看護師
	・フットケア研修会	稲城市立病院	
10	・介護ロボットの導入・活用に対する 機能訓練指導員としての関わり方	東京都社会福祉協議会 高齢者福祉施設協議会	デイサービス マネージャー ・事務員兼 機能訓練指導員
	・経営協セミナー	東京都社会福祉協議会 社会福祉法人経営者協議会	
	・ぽかぽかフィジカル平尾 デイサー ビス見学会	(株)あすかライフケア	
	・パナソニックエイジフリーケアセン ター荻窪デイサービス視察	(株)パナソニックエイジフ リー	
11	・認知症に関する研修会～体験から基 礎を学ぶ～	東京都社会福祉協議会 高齢者福祉施設協議会	デイサービス 介護職員各1 名
	・高齢者施設におけるサービスマナー 研修会		
	・パターン化しない認知症ケアのヒント		
12	・ソーシャルワークカフェ in 飯田橋	東京都社会福祉協議会 高齢者福祉施設協議会	デイサービス 生活職員
	・社会福祉法人楽友会 偕楽荘生活相 談員研修	社会福祉法人楽友会 軽費老人ホームA型 偕楽荘 副施設長 岡 靖晃氏	
	・社会福祉法人虎千会 実りの里 生活相談員研修	社会福祉法人虎千会 実りの里 施設長 原 和教氏	
13	・福祉サービス提供における契約書の 理解とリスクマネジメント	東京都社会福祉協議会 福祉サービス運営適正化 委員会	ケアハウス・デ イサービス生 活相談員各1 名
14	・平成30年分年末調整説明会	日野税務署	事務職員

⑦介護職員に資格取得支援費を支給し、「社会福祉主事任用資格」等の資格取得支援を行った。

⑧職員の専門職としてのスキルアップを目指し、以下の通り内部研修を行った。

平成30年度 内部研修会実施一覧

月	研修名	実施者	参加職員数
4	・「倫理規程と30年度介護保険法改正のポイント」	施設長	10名
5	・「コミュニケーション・リーダー研修」	(株)グローライフ ピース いなぎ 渡辺 秀和氏	14名
6	・「感染症・食中毒・熱中症」研修	ケアハウス介護職員	13名
7	・「福祉従事者に必要な自己覚知とエンカウンター」	施設長	27名
9	・「地域に必要とされる施設となるためには」	社会福祉法人楽友会 軽 費老人ホームA型偕楽荘 副施設長 岡 靖晃氏 管理栄養士 飯田佳世氏	22名 (近隣事業所 職員含む)
10	・「感染症」研修	ケアハウス介護職員	15名
11	・平成30年度「普通救命講習」	応急手当普及員	11名
	・平成30年度第1回「ハーモニー松葉身体拘束適正化研修」	施設長	15名
1	・認知症ケア研修	デイサービス介護職員	16名
2	・平成30年度第2回「ハーモニー松葉身体拘束適正化研修」	デイサービス生活相談員	16名
3	・「平成31年度デイサービス体制に向けて」	デイサービスマネージャー	13名
	・平成30年度外部研修報告会	外部研修参加職員	28名

◎職員会議や各部署のミーティングを毎月実施し、感染症委員会（4回）、事故予防委員会（2回）及び身体拘束適正化委員会（2回）を行い、的確な運営、経営の安定化及び業務遂行の円滑化を図った。また、会議等の内容及び協議事項の記録を、職員に閲覧し周知に努めた。

（4）施設の設備整備・保守及び修繕

＜取組みの結果＞

平成30年度は以下の通り、施設設備整備及び修繕を行った。

○法人設備等

- ①施設外壁・防水大規模改修工事
- ②非常階段及び施設中階段の照明の交換修繕
- ③厨房食器洗い洗浄機修繕
- ④施設内LANケーブル配線増設工事

○ケアハウス

- ①居室内・施設共有部分ナースコール交換修繕
- ②循環式ろ過装置基盤交換修繕

○デイサービス

- ①送迎車輛修繕（エアコン、タイヤ交換、バンパー等修理）
- (5) 安全（災害）管理

＜取組みの結果＞

- ①夜間想定にて消火訓練・消防設備の確認及び避難訓練を行った。地震や水害想定での総合防災訓練、自主避難訓練を定期的に行い災害発生時に備えた。
- ②業者による防災設備点検、防火・防災管理者による自主点検を定期的に行い、非常灯のバッテリー交換等、不備があった箇所については改善を行った。
- ③職員やご入居者の災害予防等の危機管理意識の高揚に努めるとともに、火災予防に対する安全管理意識の向上と、事業所における危機管理体制の強化を図った。
- ④災害発生時に備え、防災設備、備蓄食品、帰宅困難者対応備蓄品などの整備促進を図った。

(6) 財務管理・経理事務

＜取組みの結果＞

- ①新会計基準や経理規程に則り、会計処理の適正化に努めた。
- ②事業計画や予算計画に則り運営や予算執行を行い、必要に応じて予算の補正を実施し適正な運用を行った。
- ③次年度事業計画に則り、この根拠に基づき積算し次年度当初予算を作成した。
- ④福祉会計サービスセンターの会計往査後に、運営状況や予算執行状況を経理職員が把握し、理事長及び施設長に報告を行った。
- ⑤財務分析シートを活用し3ヶ月に1度財務分析を行い、当法人と東京都内の社会福祉法人と比較し、収支率や人件費率等を検証・把握した。また、経営ガバナンス強化のために理事会においても分析結果の報告を行った。

(7) 地域公益活動及び交流イベントの実施

＜取組みの結果＞

- ①ご入居者及びご利用者と地域住民との交流や再会を目的に「ハーモニー松葉 歌の祭典」を3ヶ月に1回定期開催し、毎回100名近い方にご参加いただいた。また弁天通りハロウィンイベントに、地域活性化のため参画した。
- ②矢野口地域3法人の共同事業として、共働き世帯等の孤食の子ども居場所作りを目的に毎月2回「やくち子ども食堂」を開催し、6～10名の子どもが参加した。また、稲城市社会福祉法人連絡協議会主催の実践報告会にて稲城市内社会福祉法人の役員や評議員に対し、取組みを松葉保育園園長と発表した。
- ③コミュニティーソーシャルワークの確立のため、つながろう！やくち主催の会議の出席やフォーラムに参加し、また子ども食堂への広報活動等の協力も得ることができた。

(8) 広報活動・営業活動

《取組みの結果》

- ①「ハーモニー松葉だより」を年4回（計4,000部）発行し、ご入居者・ご利用者・ご家族をはじめ、居宅介護支援センターや包括支援センター、市内関係機関（社会福祉協議会や医療機関等）に配布し、ハーモニー松葉の活動状況の周知に努めた。
- ②「ホームページ」の新着情報で広報誌や地域行事へのパンフレット、各事業の月間予定表及び献立表等を毎月掲載し、法人の運営・経営状況を情報公開することでご家族や地域社会からの信頼を得ることに努めた。
- ③当法人のSNS運用基準を策定し、平成31年1月より法人オフィシャルFacebookを開設し、正規職員が1人週1回、イベント開催情報、活動内容を投稿し家族や地域に向け発信した。

3. 軽費老人ホーム ケアハウス ハーモニー松葉

《取組み結果》

（1）ご入居者への処遇

- ①ご入居者の自主的な行事参加や社会性を取り戻すことを目的に、各レクリエーションに応じたポイントを設定し、参加時に付与し貯まったポイントを納涼祭や食事サービス等に還元し、結果としてご入居者の行事への参加率向上につながった。
- ②ご入居者の介護予防や健康保持のため、毎週1回軽体操や近隣へのウォーキングを行った。
- ③自立支援のため、外出ツアー（買物・花見・外食）等を2ヶ月に1回行った。
- ④施設内イベント（レクリエーション、手芸、ちょこっと居酒屋や誕生日会等）を充実し、ご入居者間の交流機会や生きがい支援を図った。
- ⑤ご入居者役員や園芸、省エネ、行事及び談話室係のご入居者と職員が行事の企画や住環境の整備に関する協議を行い、施設運営の改善と自立支援につなげた。
- ⑥ご入居者が快適な生活を送れるよう談話室の改装を行い、3Fに図書スペースの増設、2F談話室は血圧計やコーヒーマシーンを設置した。また活用促進のため映画上映会、ゲーム大会、お茶会等を実施した。
- ⑦適切でより良いサービスを実現するため、ご入居者へのアンケート調査を実施した。
- ⑧食事の満足度向上や健康保持を目的に、ふりかけやサンファイバー（食物繊維）・洋食の提供の他に、特別食としてクリスマス・お正月・敬老の日に、行事食としてお寿司・お刺身食・さんま焼き等の秋の味覚祭り・ぶりの解体ショーやハッピーランチ等を実施した。
- ⑨看護職員によるご入居者への健康相談日を毎月1回開催し、医療ニーズを抱えるご入居者への対応に努めた。また、協力歯科医療機関の無料歯科検診や口腔ケア講座等を実施した。

（2）入居稼働率の維持・向上

- ①ケアハウス入居稼働率99.3%を目指したが、入退所はなく稼働率は100%であった。
- ②10人以上（計25名）の新規待機登録者を確保することを目指し、入居待機者は9名

増え、年度末で計 27 名となった。また、稲城市内の民生委員等への周知・連携を強化し、職員が 3 ヶ月に 1 回、近隣市町村・包括支援センター等に営業活動を行った。

- ③ホームページにて毎月 1 回、月間予定表やイベント開催情報を更新し掲載した。
- ④ハーモニー松葉だよりにケアハウス部門のPRを年 4 回掲載し、また東京都社会福祉協議会軽費分科会で作成した軽費老人ホームのパンフレットも活用し、地域関係機関、医療機関、市区町村の高齢福祉課や地域包括支援センター等に配布し取組みを広報した。
- ⑤入居一時金 300 万円に対しての減額や、今後の軽費老人ホームとしてのあり方について検討した。

(3) 補助金の活用

- ①運営補助金については、やのくち子ども食堂でのご入居者の自立支援、地域交流イベントでの地域住民と交流の促進により東京都補助金の加算の取得につながり、稼働率も 100%であったことから 3,142 万円を確保することができた。
- ②人件費や修繕費等を事業計画に則り、的確かつ計画的に執行した。
- ③共同募金会B配分の助成金の申請を行い、スポットエアコン 4 基の購入に対し交付されることが決定した。

(4) 適正・安定した運営

平成 30 年 6 月に軽費老人ホームの運営基準が改正されたため、基準に則り身体拘束適正化や運営面での変更点に則してサービス適正化に努めた。

(5) 地域社会・住民との交流

- ①こども食堂や地域イベント（ハロウィン等）を企画し、ご入居者にもご参加いただき地域住民や近隣の学校児童等（保育園、小・中学校）との交流を促した。
- ②納涼祭、地域交流イベントを開催し、地域行事（矢野口防災訓練や地区盆踊り等）に職員とご入居者で参加した。
- ③つながろう！矢野口や関係機関、自治会や民生児童委員及び包括支援センター等と連携し、社会的支援が必要なご入居者の架け橋となるよう取組んだ。

(6) 家族・保証人会の実施

9 月に家族・保証人会を開催し、9 家族 11 名にご参加いただき、意見交換会等を通じ運営面の理解や緊急時の対応等の協力を得られるよう努めた。

4. デイサービスセンター ハーモニー松葉

〈取組み結果〉

(1) ご利用者の確保

- ①デイサービスご利用登録者数を年間平均 80 名目指したが、30 年度は年間平均 77.8 名であった。
- ②平成 30 年度の新規ご利用者数 20 名を目指し、新規ご利用者数は 43 名であった。
- ③ご利用者数を 1 日平均 29 名、年間延利用者数 8,903 名(307 日×29 名=8,903 名)、稼働率 83%以上を目指したが、30 年度は 1 日平均 26.3 名、年間延利用者数 8,060 名(306 日×26.3 名)、稼働率 75%で目標値には届かなかった。

(2) ご利用者へのサービスの充実

① デイルーム内の環境整備

- 整理整頓と清掃を定期的に行い、清潔で安全な場所の提供に努めた。
- デイルーム内には季節にちなんだ草花をテーブルへ飾り、ご利用者の作品を展示することで季節感のある空間作りに努めた。
- 芳香浴を行うことで、リラックスできる空間を提供し、居心地の良い場所作りを進め、ご利用者の体調管理、感染症予防のため適切な空調設定を行い健康維持に努めた。

② 食事サービスの充実

- 通常食に加え特別食(握り寿司、お刺身食等)を年4回、ハッピーランチ(バイキング食)を月1回、お花見弁当などの行事食を適宜提供し、食べる楽しみを感じていただけるよう努めた。
- 心身機能の低下等で外出が困難なご利用者にとって貴重な機会となり、屋外を歩いたり、好きな物を注文することで心身の機能訓練の効果も期待されるため、月1回、回転寿司やレストラン等への外食ツアーを実施した。
- 昼食やおやつなどただ提供するだけではなく、作る楽しみや達成感を持っていただくため、おやつ作りを月2回提供した。また、調理師がご利用者の目の前で盛り付けや献立の説明を行い、満足度の向上を図った。
- 3ヶ年運営計画に掲げている「ドリンクスペース」を設置し、ご利用者の水分補給(脱水予防)とフリードリンクによる満足度の向上を図った。

③ レクリエーションの充実

- 年間事業計画に従い、季節行事や趣味・外出活動を提供し、楽しみながら身体を動かすことで認知・身体機能面の維持、向上につなげた。
- ご利用者がデイサービスで学んだ「絵手紙や習字」、「楽器の演奏や歌」などを年数回発表する機会(作品展や発表会)を作り、家族などに成果を見ていただくことで意欲の向上につなげた。また、地域で行われている「稲城市 i 祭り」や「第2文化センター祭り」などにご利用者の作品を出展した。
- 今年度より提供時間が5-7時間から6-7時間へ変更となり、営業時間が延長となったため午後の延長時間を有効活用し、選択制の機能訓練プログラムの提供を行った。
- ご利用者の趣味趣向や心身状態に適したレクリエーションを提供するため、グループ制のレクリエーション(運動・アート・音楽・美容・園芸・玩具)を曜日毎に実施し、楽しみながら機能訓練を行うことで心身機能面の維持・向上につなげた。

グループ制プログラム一覧

グループ名	曜日	活動内容
運動グループ	月	介護予防運動士による機能向上プログラム(セラバンド、体操及び市内公園のウォーキング等)を行い、ご利用者の機能面の維持・向上につなげた。
アートグループ	火	作業療法の要素を取り入れ、作品作りの楽しみ・発表機会を通してご利用者の生きがいや機能面・精神面の安定につなげた。

音楽活動グループ	水	歌うことや音楽療法を取り入れたプログラム（カラオケや大正琴・ハンドベル等の楽器演奏）を行いご利用者の心身の健康回復、向上を図った。
玩具グループ	水土	麻雀・囲碁などの趣向性の高い活動を通して利用者間の交流や気分転換を図ってもらい、認知面の低下予防につなげた。
美容・整容グループ	木	「化粧品療法」のちからで美意識を向上し、ご利用者が自分に自信を持ちいつまでも元気でいただけるように努めた。
園芸グループ	金	園芸療法を取り入れ、農耕活動（寄せ植えや花、野菜の植え付け）やガーデニングを行い、ご利用者の育てる楽しみや生きがい作りを図った。

(3) 書類等の整備と管理

ご利用者のアセスメントや通所介護計画書、ケース記録等の作成等、個人ファイルの管理を適正に行うことで、健全なデイサービスの運営を進めた。

(4) 収益確保

- ①30年度の介護保険事業収入総額 6,243 万円を目指したが、5,812 万円と目標額に届かなかった。
- ②収支差額 650 万円以上を目指したが、30年度は 127 万円と目標額には大きく至らなかった。
- ③ご利用者数に応じた介護職員数等の配置を行い、サービス提供の適正化を図った。
- ④介護支援ボランティア制度を活用し、ご利用者の安全とサービスの向上を図った。

(5) 営業・広報活動

- ①月に 1 度は市内・近隣の包括支援センターや居宅介護支援センターへ営業活動を行った。
- ②ハーモニー松葉だよりや空き情報、Facebook にて活動内容を掲載し、ご利用者・ご家族及び関係機関にサービス内容を把握していただけるよう取組みを行った。

(6) 家族会とご利用者満足度調査の実施

- ①平成 31 年 2 月にご利用者家族との情報交換や意見交換会を行い、6 家族 8 名にご参加いただき、ご家族のニーズ把握や介護負担の軽減、事業内容への理解と協力を得る機会を設けた。
- ②ご利用者満足度調査を行い、ご利用者のニーズ把握やサービスの改善・向上に努めた。

5. 稲城市日常生活支援総合事業 通所型 C 事業（筋トシ）

〈取組み結果〉

(1) 事業運営

- ①稼働率や収支の安定化を目指し、制度的な課題などから稼働率が上がらず収支面において経営を圧迫しているため、全ご利用者修了時の平成 30 年 8 月に事業を廃止した。
- ②生活機能の減退した高齢者の心身の特徴を踏まえて、ご利用者が可能なかぎり居宅においてその有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、さらに利用者の社会的孤立感の解消及び心身機能の維持並びに家族の身体的・精神的負担の軽減を図る

ために、必要な日常生活上の世話および機能訓練等の介護、その他必要な援助を行った。

③区市町村、地域包括支援センター、医療・福祉サービス提供者と綿密な連携を図り、総合的なサービスの提供に努めた。

(2) ご利用者へのサービス提供

①事業廃止に向け、ご利用者が修了いただけるようサービス提供を行った。

②6ヶ月間の短期集中型プログラムにてマシントレーニングや運動プログラムを実施し、ご利用者の下肢筋力の低下予防や機能面・体力の維持・向上を目指しサービス提供した。

③ご利用者のアセスメント及び通所介護計画書作成に際し、個々のご利用者のニーズ等に対応する。また基本情報、通所介護計画書・ケース記録を適正に作成し保管した。

④ご利用者の参加開始時や終了時に握力や歩行等の測定を行い、レーダーチャート等で参加における効果測定を行った。

⑤地域ケア会議や担当者会議に参加し、参加者の効果測定の結果を基にご利用終了後の社会資源への継続的な参加を目指し、地域包括支援センター等と連携に取り組んだ。

6. 稲城市地域支援事業 介護予防体操教室事業

〈取組み結果〉

(1) 実施概要

①市内在住の65歳以上の高齢者を対象に、介護予防マニュアルに則って運動機能向上を中心とした介護予防プログラムを実施することにより、地域の高齢者の健康維持、介護予防を支援した。

②週1回日曜日に連続12回の開催とし、1回あたりの90分で実施した。

③運動指導員1名、補助指導員1名、計2名の職員を配置した。

④定員25名に対し、30年度はご利用者数24名、1回平均21名の参加であった。

(2) ご利用者へのサービス内容

①介護予防マニュアルに従い、以下に掲げる各種サービスをご利用者のニーズと必要に応じて行った。

- ・介護予防に関する講話
- ・運動機能向上に関する講話と実践
- ・ホームプログラムの指導（自宅用資料の配布）
- ・ご利用者アンケート実施・集計

②ご利用者の安全には十分に注意し、緊急時においては責任を持った対応に努めた。

(3) 適切な事務

①市町村への年1回の委託金の請求や精算などの事務を適切に行った。

②市町村へのアンケートや利用状況等の報告を各期終了後に速やかに行った。

③ご利用者の基本情報等の管理を適切に行った。

以上が、平成30年度の事業報告概要である。

7. おわりに

ここに事業報告をまとめましたが、平成30年度は介護保険法や報酬改正の煽りを受けるなどここ数年にない厳しい経営状況となったが、3ヶ年運営計画の最終年度という中で、社会福祉法人博愛会 ハーモニー松葉のブランド力向上、介護人材確保及び安定化、ご入居者・ご利用者へのサービスやケアの充実、地域公益活動における地域からの信頼向上に成果を挙げることができ、新たな目標や課題も明確化することができた。

地域共生社会や地域包括ケアシステムの構築が求められる中で、今後も新たな中長期計画に則り、多様化・複雑化している福祉ニーズへの対応や地域に信頼される社会福祉法人となるべく職員一同邁進してまいりますので、より一層のご支援、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

以上